

2026年度 JASO・JIS 制定・改正 作業項目一覧表

JIS制定3件、改正5件 JASO制定2件、改正4件、JASO TP制定2件、計16件 (これとは別に2027年度JASO改正1件)

作業内容	部会	規格番号	規格名称	目的
JIS制定 (3件)	電子・電装	D1626-3	自動車部品—電気・電子機器の環境条件及び試験法 —第3部:機械負荷(仮称)	(3件共通) 国際的に広く用いられている電気電子機器耐環境試験法規格ISO 16750が2023年度に改正発行された。これを受け、対応する国内規格への改正内容取り込みを検討する。対応する国内規格がJASOであるため、ISO整合規格として新たにJISとして制定することを計画。従来の国内規格であるJASO D014-3,-4,-5は本JIS制定後に廃止する。
		D1626-4	自動車部品—電気・電子機器の環境条件及び試験法 —第4部:気候負荷(仮称)	
		D1626-5	自動車部品—電気・電子機器の環境条件及び試験法 —第5部:化学負荷(仮称)	
JIS改正 (5件)		B8031	内燃機関—スパークプラグ	内燃機関用スパークプラグは、内燃機関の高性能化と共に、設計改善・新設計・評価方法の改善などが行われ、ISO規格では基本特徴・寸法がISO28741、評価方法がISO11565にて改訂されている。上記ISOに関連するJIS規格が、JIS B 8031であるが、2006年から改訂されておらず、直近でISOが改訂されたためISOとJISで齟齬が発生している。このため、ISOの改訂された内容を鑑みて、JISを改訂が必要である。
	ビークルダイナミクス	D2609	自動車 —非鉱油系液圧ディスクブレーキのゴムシール	JIS D2609の定期見直し検討において、複数の引用先規格が改正され、試験名、適用項目番号などが変更されている為、各種見直しを行う。また、金属試験片 亜鉛(ZDC1)が入手困難であり、入手性が容易なZDC2を追加する。耐水研磨紙は320番からP320番へ訂正を行う。
	パワートレイン	D3642	ディーゼル機関—クランプ取付け式CR燃料インジェクタの取付け寸法	ディーゼル機関の燃料噴射装置に新技術が投入され、これに対応して、規格が制定・改正されている。コモンレールシステム用のCR燃料インジェクタの取付け規格はISO12251が制定され、対応国内規格としてJIS D3642を制定した。その後ISO12251は2017年に改訂され、さらに次の改訂が作業中である。一方JISは制定以降改正が行われず、ISO規格とJISとの整合が不十分となっている。ISO12251は日本でも活用されているので、JISを改正し、対応ISO規格との整合性を高める。
	ビークルダイナミクス	D4102	空気入りタイヤ用ホイール及びリム —用語・呼び・表示	JIS D4102の定期見直し検討において、IDT規格であるISO 3911が2021年に改正されていることを確認したため、ISO 3911:2021に合わせた内容に本JISを改正する。
	パワートレイン	K2247-4	ディーゼル機関—NOx還元剤 AUS32 —第4部 重量車用の尿素水溶液給水インタフェース	SCRコンバータシステムの作動に必要なNOx還元剤 AUS32(尿素水溶液)の給水インタフェースに関する規格として、ISO 22241-4(尿素水溶液給水インタフェース)があり、それに対応したJIS K 2247-4がある。ISO 22241-4改正版が2023年に発行され、対応するJISについて整合を図る必要がある。
JASO制定 (2件)	ビークルダイナミクス	新規	自動車 —後輪転だシステム安全性試験方法	ISO26262に対応した自動車用後輪転だシステムの安全性規格を新たに制定する。近年後輪転だシステムを採用する車両が増加し、その最大転舵角も拡大傾向にある。しかし、失陥時の規定はUN-R79 Annex4にあるものの最大転舵角によらない1条件のみ、かつ定量規定がない簡易的なものであり、後輪が転舵したまま戻らない状態についての規定はない。一方でGB17675では機能安全への適合が求められる。これらの状況を踏まえ、安全性のJASO規格を制定し、ISO化をNP提案する予定である。
	材料	新規	自動車用電動パワートレイン潤滑油	電動パワートレイン(減速機ギア、モーター)の適用が拡大しているが、減速機の潤滑油、モーターの冷却液は各社独自に決めており、互換性が無く、市場で誤注入されて品質問題を起こす可能性がある。そのため、市場油の品質/性能向上を図ることを目的に、日本が主導して電動パワートレイン油(減速機ギア潤滑、モーター冷却兼用)のJASO規格を制定する。
JASO改正 (4件)	ビークルダイナミクス	C705	自動車—すえぎり操だ力試験方法	近年、電動パワーステアリング(EPS)装着車が一般的となっている。しかし、現行規格の試験条件では、EPS装着車の特徴による試験結果のバラつきを生ずる恐れがある。そこで定期見直しを期に、EPS装着車特有の試験条件を設定する。
	電子・電装	D609	自動車部品 —自動車用電線の電流量	自動車用電線のJASO規格は、耐熱区分や低圧・高圧、アルミ電線などによって規格番号が異なっていたが、試験項目の規定内容の整合およびISO6722(現在はISO19642)との整合を図るため、これまでの自動車用電線規格(JASO D603、D611、D618、D624)を廃止し、統合されたJASO D625規格群を2019年度に制定した。本規格は、上記廃止済規格を引用しているため、JASO D625規格群の内容を反映させる。
	要素	F106	自動車部品 —グリベリングトルク形戻り止め六角ナット	本規格は、引用規格の最新化、関連規格との整合が必要と考える。また、市場に於ける規格の使用実態を確認し、現状に合わせた規格改正を行う。
	二輪	T803	二輪自動車の操安性及び安定性用語	2024年にJASO T803として定義された二輪自動車の操縦性・安定性に関する用語について、電子制御技術の発達などの状況を考慮し、最新の運動学、評価方法を反映したうえで定義しなおし体系を整理する。
JASO TP制定 (3件)	パワートレイン	新規	自動車排出ガス中の固体粒子数計測装置における検出器の感度検証法	国連は質量による粒子状物質規制の補完あるいは代替法を検討し、固体粒子数(SPN)による規制を規定した。日本でもSPN規制導入が適当とされ、2023年にディーゼル車、2024年に筒内直接噴射ガソリンエンジン搭載車に対して適用が開始された。そこで、本TPではPN計測装置に組み込まれている検出器に対して感度を検証する方法を纏め、2022年に制定したTPであるJASO TP22004と併せて有用な技術資料とする。
	パワーエレクトロニクスシステム	新規	OTAにおける電源状態のガイドライン	JASPARにてOTAの仕様定義を進める上で、従来のIG,ACCに対して、OTAはその2つだけで定義できない為、車両の電源状態の用語統一の要望があった。そのJASPARのニーズを受け、電源状態の用語標準化WGを立ち上げ、OTAの各状態における各社の電源状態の用語を横並びし、ガイドラインとしてTPを策定する。
2027年度 JASO改正	材料	M351*	自動車部品 —外装部品のキセノンアークランプによる促進耐候性試験方法	キセノンアークランプによる促進耐候(光)性試験は、多くのOEMで社内規格に採用されているが、関連するJIS/JASO規格は制定当初の内容を踏襲しており、実情と齟齬が生じている。また、キセノン耐候(光)性試験方法において、ISO、JISおよびJASOに違いがあることが判明。よって、試験データへの影響、業界内での試験結果の取り回しに影響がないかを確認、整合化を図る。

※JASO M351は2025年度定期見直しにて改正と判断されたが、関連規格含めて検討が必要で2027年度審議とした。